

平成25年12月18日

上田市長 母 袋 創 一 様

上田中央地域協議会

会長 宮 本 智 夫



## 意 見 書

上田市地域自治センター条例に基づき、下記のとおり地域協議会の意見を提出します。

## 記

1 件 名	「市街地循環バス」の利活用促進について
2 意 見 内 容	<p>上田中央地域協議会の第1分科会では、上田市総合計画の地域まちづくり方針に定める「新市の核となる都市機能の充実と中心市街地の活性化」の具現化を図るため、「市街地循環バス」について先進市での視察を踏まえ調査研究をしてまいりました。その結果を下記のとおり意見書として提出します。</p> <p>1 「市街地循環バス」の目的について      「市街地循環バス」の目的は、市街地における高齢者、通勤・通学者、諸施設利用者等の交通手段のため運行するとされております。「市街地循環バス」は、市民の移動方法のほかに中心市街地に人を呼び込むための手段でもあり、観光客も乗車することも視野に入れながら幅広い用途に活用できるように見直しをお願いします。</p> <p>2 市民参加の協議会の設置について      「市街地循環バス」の運行にあたっては、利用者の増加とより良い運行とするために、利用者の声が反映されるような仮称「利用促進協議会」の設置をお願いします。</p> <p>3 市民参加型の運行について      「市街地循環バス」の利用促進にあたっては、車内に子どもの絵を飾るとか車内外に広告を掲示するなど市民のアイディアを取り入れて、市民が乗りたくなるような市民参加型の運行について支援をお願いします。</p>



# 「市街地循環バス」の利活用促進について

平成 25 年 12 月 18 日

上田中央地域協議会

## 1 テーマ選定に至る経緯(背景)

上田中央地域協議会では、地域まちづくり方針に掲げる「新市の核となる都市機能の充実と中心市街地の活性化」及び「歴史遺産との融合・調和を図るまちづくり」の実現に向けて、「住んでよかった生活快適都市うえだ」「訪ねてよかった歴史的遺産継承のまち上田」の実現を図るべく、市民や観光客等来訪者が行き交う「動きやすい地域づくり」の実現の方策を模索して調査・研究を進めてまいりました。

言われて久しい中心市街地の活性化は、当然のことながら各商店街、言うまでもなく各個店の魅力づくり等、自助努力に因るところが大きいと言えますが、他方そこに行きやすい、そして交通機関の乗降車しやすい環境を模索、構築していくことが求められています。

それは、単に交通弱者(高齢者等)に対する福祉目的のような性質のものだけではなく、真田氏を代表とする上田の持つ歴史遺産を求めて全国各地から訪れる観光客にとっても、魅力ある周遊スタイルとなる環境を整備して、利活用を図るために対外的にPRを成すべきであります。

すなわち、円滑な交流促進が図られ、軽快で人や自然にやさしい交通体系の構築を図ることがわたしのまち、住みたいまち「歴史と文化薫るまち上田」へと繋がることと信ずるものです。

## 2 現状把握

平成25年5月9日（木）、5月10日（金）の両日、市街地循環バス（青バスと赤バス）に委員がそれぞれルートごとに分かれて乗車しました。両日とも17:00上田駅発の便は全区間で利用者がいませんでした。また、全便とも10人以上乗車した時間帯はありませんでした。

この状況を踏まえ、市街地循環バスの現状について、感想や意見を持ち寄りました。

- ・ もう一度バスに乗りたいと思わない。もっと乗ってみたいバス、お年寄り等に優しいバスにできないか。
- ・ 運行経路の利便性は以前よりはよくなっている。東京吉祥寺のバスが参考になる。
- ・ ハード面の整備をしていくことも大事だが、今ある状況をソフト的に変えていくことができる可能性がある。
- ・ 医療センターに循環バスが行く必要があるかどうか。路線バス等、ほかの運行もある。西上田も含めて循環バスとして廻る必要があるかどうか検討の余地がある。
- ・ 乗降口が高く乗りにくい。停車場は多いので便利だと思う。医療センターから駅までは遠回りする感がある。
- ・ ドライバーの運転は安心できる。昼間の運行では乗る人が限られる。観光客の方々にも乗っていただく工夫が必要ではないか。
- ・ 同じ時刻に出発するので、青・赤どちらなのか分かりづらい。
- ・ 赤バスと青バス、乗るバスを間違えた。（それほど分かりづらい）
- ・ 車内で青バス・赤バスの確認が出来ない。
- ・ きめ細やかな路線は、評価大（必要としている人はいる）
- ・ 初めての方は、停留所が分かりづらい。（工夫が必要）
- ・ 路線や停留所の車内案内も放送だけでなく、画像でお願いしたい。（東京の地下鉄のように）
- ・ 乗り心地が悪い。
- ・ 知っている人しか循環バスのことを分からぬ。
- ・ 赤バス・青バスのカラーリングが紛らわしい。（ド派手なカラーリング、誰からも分かる存在のバス）
- ・ スポンサーを募って、まずはバスの外観の塗装から。
- ・ 利用するお客さんは多いと思ったが、主要な停留所でもぜんぜん乗車する人がいない。

### 3 先進市への視察（静岡県掛川市、茨城県土浦市）

平成25年7月25日（木）、8月19日（月）の両日、上田市と人口規模が同程度で市街地循環バスを運行している他市の事例を研修するため、日帰りの視察を実施しました。

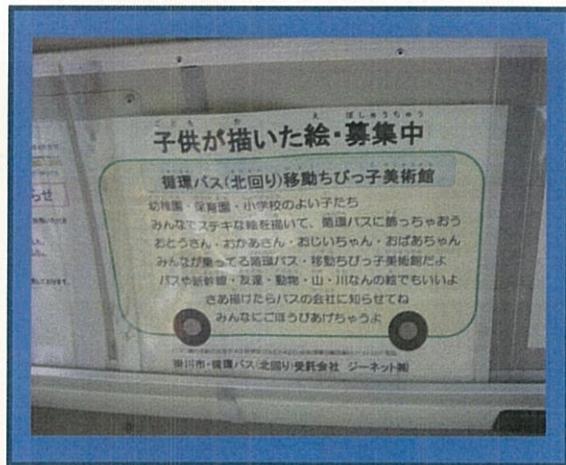
実際に現地の循環バスに乗車するとともに、次の3点について説明を受けました。

- ① 中心市街地循環バスの状況について
- ② 利用者数増加のための取り組みについて
- ③ 循環コースの設定について

これらを踏まえ、研修結果を以下にまとめました。

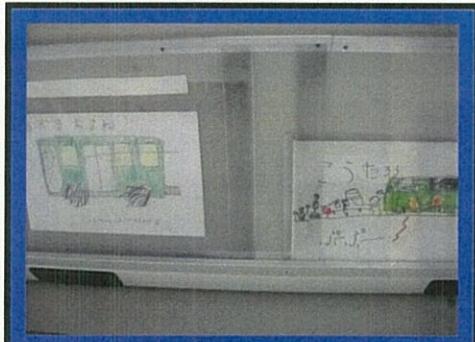
## (1)掛川市の状況

- ・ 人口 11.8 万人、城下町
- ・ 3 系統で運行(北回り 17 便 12.8 km、南回り 17 便 12.2 km)
- ・ ルート設定は、住民グループにヒアリング調査。高齢者や主婦の切なる願いや生活行動を踏まえて決定。
- ・ ルートは、市役所(乗り継ぎ地点)、ショッピングセンター、病院、自動車学校へのアクセスを考慮
- ・ 住宅地と市街地を結んでいる。乗務員の対応(車内アナウンス)が良い。車内の掲示物(子どもの絵等)…美術館バスの発想は面白い。



バス乗車の様子

子どもの絵を展示した美術館バス



見やすい表示のバス停

## (2) 土浦市の状況

- ・ 人口 14.3 万人
- ・ 3 路線(A コース 8 km 40 分間隔、B コース 8 km 40 分間隔、C コース 15 km 60 分間隔) AB コース 28 人乗りノンステップ小型バス、C コース 10 人乗りジャンボタクシー
- ・ まちづくり活性化バス…導入の背景には中心市街地の空洞化問題があった  
⇒ 実行委員会設立 ⇒ NPO 設立 …事業実施者と運行事業者と市の協働
- ・ 活性化バスの推進事業 …(例)商店街等との連携サービス、季節バスの運行、車両デザインや愛称の募集
- ・ バス停標識は可動式
- ・ JR 土浦駅を起点の 3 路線
- ・ 地域通貨で乗車することも可能



土浦市による説明



まちづくり活性化バス「キララちゃん」



停留場の様子

カラフルで乗りやすくする工夫があった

#### 4 課題

循環バスの現状把握と先進市の視察を踏まえ、KJ法による手法によって、循環バスに対する意見をとりまとめました。



KJ法により意見を模造紙にまとめたもの

##### (1) 循環バス運行の目的について

- ・ 市民の足（福祉とは別）、市民全体が日常の中に取り入れられる地域交通
- ・ 市民ニーズは何か
- ・ 福祉目的のバスではなく、観光客や一般市民も大いに活用できるバス
- ・ 現状は福祉目的かと思われるが、福祉目的+中心市街地に人を呼び込むための手段として利用すべき
- ・ どんなサービスをするためのバスなのか！目的を明確にする。 ①市民の足を確保する。 ②中心市街地の活性化。 ③バス利用不便地域の緩和。 ④公共交通利用の促進
- ・ まちづくり活性化バス …市街地循環バスと路線バスとの違いをはっきりさせる。 商店・タクシー会社・民間ともに協働運営に加わる。

- ・ 市民・行政・運営母体 三位の協議会を作る
- ・ 循環バスは存続させる
- ・ 観光行政の中に「バス」の必要性が出てくることを待ちたい
- ・ 理想は、市民、お客様、みんなの愛車
- ・ 「乗ること」「愛すること」とにかく利用しなければ

## (2) 広告展示の利活用と方法について

- ・ 美術館バスの構想を取り入れる
- ・ バスと子ども（園児）たちをつなぐ企画（例えば絵を飾る）
- ・ 大型店から大口広告代をいただく（例えば年間〇百万円）
- ・ 乗ってみたくなるバスに …展示物、観光案内（見どころ等の宣伝）
- ・ バスの中に広告、観光を上手に取り入れることが必要
- ・ 車内広告、停留所案内→検討
- ・ バスの中の空きスペースの活用（切絵を展示等）

## (3) 料金について

- ・ 1日乗り放題なら ￥200
- ・ 割引をどうする
- ・ 料金 ￥100にならないか
- ・ 学生、通勤の定期の導入
- ・ 土浦の「地域通貨券」は良いアイディア

## (4) ルートについて

- ・ 駅前にバスターミナルを作る
- ・ バスのルートを変える
- ・ 循環バスの巡回路をもう一度考える
- ・ 民間の路線バスのルートとの見直し
- ・ 路線バスとルートの調整
- ・ ルートの検討-1 …例えば、上田公園の中に入っては如何。重複バス停での乗り換えができるれば便利(時間)。もう一路線をひやす(中心部)。
- ・ ルートの検討-2 …例えば、ルートが分かりづらい。赤バス、青バス分けるべき(東コースと西コース)。全体路線図が認分からない。路線図の色で分からない。

- ・ ルートの検討-3 …例えば、東、西、中央のそれぞれに内回り、外回りを設ける（3路線）。ネーミングはそれぞれにする。東コース→国分寺駅まで延ばせないか（パーク＆ライド）。
- ・ 利用者の目的に合わせる（運行の時間帯を）…例えば、①買い物 ②病院 ③通勤・通学 ④公共施設
- ・ 観光、市民の日常、この二つがあつて利用できるバス … 使い易さ：乗り易さ愛らしさのあるバス
- ・ 運行ルートの見直し …「空回り」効果は？ ないか？

#### (5) 運転手(乗務員)について

- ・ 運転手さんもっと愛想をよく（バスの意義、教育）
- ・ 乗務員教育
- ・ 運転手のアナウンス マイク装着で
- ・ かっこいいユニホーム
- ・ ドライバーの質の向上
- ・ 車内アナウンス＆モニター表示の充実

#### (6) 車体について

- ・ 循環バスの名称は「幸村バス」・「小松姫バス」などとする
- ・ 利用する側の 分かりやすさ（バス停・時刻表）、優しさ（ノンストップ・ドライバーの心）、親しみやすさ（バスのネーミング）
- ・ 新しい車両導入について検討する
- ・ 「お洒落」市街地の活性化に必要—素敵なバス一台で街も人も変わる
- ・ 赤バス、青バス、オレンジバスの名称を変更する
- ・ 「きれいなバス」心が変わってくるのではないか マナー
- ・ 安全—ノンストップ …バスの形状を変える 外観も含めて乗りたくなる
- ・ バスの外観 統一観で
- ・ 乗降ステップ低いものを
- ・ バスのネーミング（キャラクター）を応募 バスのデザイン
- ・ 利用者がこのバスに乗ってみたくなることが必要
- ・ キャラクターはともかく色あざやかに
- ・ バスのデザイン・巡回路等々 若い人達の意見を入れてみたら
- ・ 赤バス⇒青バス ネーミングが悪い（赤鬼—青鬼のイメージ）
- ・ 車体をもっと個性的に（分かりやすく、インパクトが必要）



赤バスの外観



赤バスの車内の様子

#### (7)バス停について

- ・パーク＆ライドを仕組みの中に取り入れる
- ・バス停は上田の歴史・風景等考えた目につく形が望まれる
- ・バス停でなければ乗降できないのか（商店街では100区間で乗降が自由に）
- ・目につきやすいバス停の設置
- ・駅前バス停が分かりづらい(赤バスのバス停表示の色が薄くなっている)



下側の赤バスの部分は変色し、黄色に

## (8) 運行に関する意見、アイディア等

- ・ オレンジバスとの統合
- ・ 運賃低減バスとの連携をとれないか(バスターミナルの設置等)
- ・ ただの足でなく、観光めぐり(東・北 巡回)、スーパーめぐり、医療めぐり等、名前をつけて巡回するのはどうか
- ・ 商店街とタイアップして買物をすると乗車券プレゼント
- ・ コミュニティバス運営組織を作る
- ・ 便利さ …運行回数、お年寄りの人口密度が高い所への乗り入れ
- ・ 中心市街地に人を呼び込むための手段としてのバス運行 …例えば組織については土浦市のようなボランティア組織+行政(予算面支援)。運行ルートについては、民間施設、商業施設も含め全面的に見直し。
- ・ バスの本数増加
- ・ 新幹線、しなの鉄道、別所線、路線バスと循環バスの発車時刻をリンクさせる
- ・ 運行アイディア …例えば、①運行時間→広く意見収集。②バス運行地域の各種団体と協力(行事、各種施設のPR 商業施設も含む)。③バスのネーミング募集、商用広告。④ノンステップバス導入。⑤運行補助ボランティア 停留所案内、清掃、乗降補助。⑥回数券の活用。

## 5 意見

### 意見 1 「市街地循環バス」の目的について

「市街地循環バス」の目的は、市街地における高齢者、通勤・通学者、諸施設利用者等の交通手段のため運行するとされております。「市街地循環バス」は、市民の移動方法のほかに中心市街地に人を呼び込むための手段でもあり、観光客も乗車することも視野に入れながら幅広い用途に活用できるように見直しをお願いします。

- (1) 観光客用としては、運行ルートに観光スポットを取り入れていただくことの検討をお願いします。

### 意見 2 市民参加の協議会の設置について

「市街地循環バス」の運行にあたっては、利用者の増加とより良い運行とするために、まずは利用者の声が反映されるような仮称「利用者促進協議会」の設置をお願いします。

- (1) 市民が乗ってみたくなるバスの実現に向けて、市民を交えた協議会を設立して、市民の生活者目線による協議の場を設けて、運行ルートやダイヤ設定に向けた提言を行います。
- (2) 協議会の設置については、幅広く市民アンケートを実施や公聴会を開催するなど、より多くの市民の意見が尊重されるような仕組みを共に研究します。

### 意見 3 市民参加型の運行について

「市街地循環バス」の利用促進にあたっては、車内に子どもの絵を飾る他車内外に広告を掲示するなど市民のアイディアを取り入れて、市民が乗りたくなるような市民参加型の運行について提案するほかその実現のために協力します。

- (1) 愛称等ネーミング、バスのデザインや車体色、絵柄等について公募するほか、市内高校の美術班にコンペを掛けて提出されたものを採用するなど調査研究しま

す。

- (2) アイディアの一つとして車内に幼稚園児、保育園児、小中学生及び市民による絵画等を展示します。
- (3) バスの運行ルートを市民参加でウォーキングするイベントを開催します。
- (4) マスコットキャラクター（ゆるきゃら）の導入について、調査研究をします。

## 6 まとめ

これまで、中央地域協議会では、公共交通バスの利便性向上に向け検討を重ねて  
いる城南地域協議会とも協議をするほか、視察に同行するなどして検討をしてまい  
りましたが少子高齢化、市の健全財政の維持等に鑑み、将来を見据えたコンパクト  
シティーの実現に向けて、中心市街地のみならず周辺地域も含めた公共交通システ  
ムの構築について、市民が知恵と勇気をもって真剣に取り組むことが肝要です。

